

この本を読みながら思い出したことがあります。それは、ようち園の時に十人ぐらいの友達といっしょにバーベキューに行った時のことです。そこは、^{木木}木の中にあつて、広い草原とザリガニつりができる池がありました。私は、や、たことはなが、たけど、みんなでザリガニつり競争をすることになりました。お母さんたちが用意してくれ、たするめをえさにして、木のえだをさおのようにしてザリガニがかかるのを待ちました。その池にはザリ

ガニだけでなく、カエルやいろいろな生き物がいました。池の周りの草原にもバッタや小さな虫がいっほいいました。ザリガニつりをしながら、他の生き物をつかまえたりもしました。つりにむ中になりすぎて、池に落ちちゃう子かいるぐらい池の道は細か、たです。気まっけて歩いていたら、^ンバシヤンという音が聞こえて、ふりふくと、どろまみれになつていた友達がいりました。私も、^タ落ちないよ、うに、^タきつけないから、む中になつていよ、^タた、私

がや、と一匹つかまえた時には、とても上手な友達トモはもう五匹ぐらいつかまえていました。お母さんたちがごはんのために私たちをよんでも、みんなの耳にそんなことは入りませんでした。この本の中のヒロキやユウやもむ中にな、ておばけ池をたんけんしていったことがよく伝わるし、私にはその気持ちがよく分かります。

今、私は東京に住んでいます。まわりには自然がないわけではないけど、ヒロキやユウや

みたいにかんたん自由にたんけんに行けるような池や川は近くにありません。だから、池や川にいるような魚や水辺の生き物を見たリふれたりすることかあまりできなにかんきうです。なので、夏休みの間、毎日のようにおばけ池でたんけんして、いろいろの生き物とふれ合っていたふたりかともうらやましいです。

ヒロキとユウは毎日のようにたんけんして、つったりとったりした生き物を観察し

たり、図かんで調べてみたり、実さいにか、
たりしています。私は、生き物にふれてみた
り、観察しないと生き物を大事にするとい
う気持ちには分らないのではないかと思いま
す。私もザリガニにこっりにお中になつた体
験や、バ
ツヤてんとう虫をつかまえてうれしかつたけ
い馬が
あります。そういうふうにしや川、池
をたんけんした子どもたちがたくさん
の生き
物にふれて、このかんきょうを
残して
いこう
という気持ちになつていくのだと思
います。

だから、生き物が身近にあるかんきょうは、
おごく大切だと思います。私が住んで
いる東
京では、そのようなかんきょうを
ささかすのは
なかなかむずかしいです。だからこそ、
ヒロ
キヤユウヤの住んでい
る所
にあるおぼけ池や
その周
りのかんきょうがすつと残さ
れて、子
どもたちがいつでもたんけん
でき
るようなか
んきょうがいつまでもあ
れば
いいな
と思
いま
す。